

中学生編

思春期という心の迷路に入り込んだわが子。
迷路は長いけれども、きっと明るいひとまわり成長した
顔で出てくることを期待したい。迷路を解くのは
子どもたち。そして、暗い道の片隅で
いつも温かい明かりを灯して待っていることが、私たち親の役目なのです。

中学生のくらし

勉強、部活動、友情、恋。親に話さないことも増えてきます。

「あのね、あのね」うるさいぐらい話しかけていた子どもが、気がついたら、すっかり話をしなくなるのはよくある話です。
子どもは思春期を迎え、内にも外にも葛藤がいっぱい。ふだんから子どもの話を聞いてあげましょう。

中学生の一日

一日5～6時間の授業があります。放課後は大半の生徒は部活動へ。一部の生徒は習い事や塾へ行く子もいます。この時期ゆっくり話を聞いたり、関わったりしながら、将来のことも一緒に考えたりしましょう。

STOP the SNSトラブル！ あなたは大丈夫？

①携帯電話、スマートフォンを子どもに持たせるときには、使用については保護者の管理下のもとで行いましょう。また、使用内容は知らせましょう。

②携帯電話、スマートフォンは、必ず保護者の責任の下、フィルタリングをしましょう。

③午後9時～午前7時までは保護者の管理下に置き、使用しません。

④学校には、持ち込みを絶対にしません。(その他)

※携帯電話、スマートフォン、だけでなく、iPod、iPad、タブレット、ゲーム機等も同様とします。

※携帯電話等での違法行為、トラブルについては、警察等を含め関係機関と連携して問題を解決することになります。

※購入を検討される御家庭もあると思いますが、本当に必要なか十分な話し合いをお願いします。

【PTA申し合わせ事項】



◎ 年間行事 (中学校の例)

- | | |
|-----|---|
| 4月 | 入学式・学力テスト・家庭訪問
授業参観・PTA総会・全国学力調査(3年)
全国標準学力検査 |
| 5月 | 体育大会 |
| 6月 | 生徒総会・期末テスト・市夏季中体連大会 |
| 7月 | 授業参観・PTA講演会・終業式
三者面談(3年生) |
| 夏休み | 県中体連大会 |
| 8月 | 始業式(8月28日前後) |
| 9月 | 課題テスト・集団宿泊教室(1年)
職場体験学習(2年) |
| 10月 | 中間テスト・市中体連駅伝大会 |
| 11月 | 共通テスト(3年生)
県中学校駅伝大会・文化祭 |
| 12月 | PTA授業参観・生徒会役員選挙立会演説会
投票・終業式・三者面談(3年生)・修学旅行(2年生)
県学力調査 |
| 1月 | 始業式・課題テスト(1、2年生)
公立高校前期選抜 |
| 2月 | 学年末テスト・立志式・公立高校後期選抜 |
| 3月 | 送別球技大会・卒業式
公立高校合格発表・修了式 |

※予定は諸事情により変更されることがあります。



学資金について。

学資金を援助する公的私的な奨学金が数々ありますが、ここでは代表的な奨学金を紹介します。

◎ 日本学生支援機構奨学金

旧「日本育英会奨学金」。日本学生支援機構は、独立行政法人日本学生支援機構法に基づいて、平成16年4月に設立され、教育の機会均等に寄与するため学資の貸与その他学生等の就学援助を行うこと等により、次代の社会を担う豊かな人間性を備えた創造的な人材の育成に資することを目的としています。

条件／高等学校・短期大学・大学(学部)・大学院・高等専門学校・専修学校(高等課程・専門課程)に在学する学生及び生徒を対象とし、学校長の推薦を受けた申込者について選考のうえ採否を決定します。選考は人物・健康・学力・家計について基準に照らして行い、予算の範囲内で採用します。

お問い合わせ: 独立行政法人 日本学生支援機構

TEL 0570-03-7240(ナビダイヤル)

<http://www.jasso.go.jp/>

◎ 熊本県育英資金

高等学校、高等専門学校、専修学校及び大学に在学する生徒又は学生で、経済的理由により就学が困難な人に対し、奨学金の貸付を行っています。

条件／①申請者と生計を一にする主たる維持者が熊本県内に居

住していること ②経済的理由により就学が困難であると認められること ③勉学に意欲があること。大学に在学する者は学力にすぐれていること ④日本学生支援機構その他法人等から現に育英資金に相当する学費の貸与を受けていないこと

お問い合わせ: 熊本県教育庁高校教育課就学支援係

TEL 096-333-2682 TEL 096-384-1563

◎ 山鹿市奨学資金

高等学校、高等専門学校、専修学校及び大学に在学する生徒又は学生で、経済的理由により就学が困難な人に対し、奨学資金の貸付を行っています。

条件／①山鹿市に居住する方の被扶養者であること ②経済的理由により就学が困難であると認められること ③学業成績が優秀であること、又は、学校長の推薦があること ④日本学生支援機構奨学金その他奨学金の貸与、又は給付を受けていないこと

金額／高校等: 公立 2万円以内 私立 3万円以内

大学等: 5万円以内

入学支度金: 40万円以内

お問い合わせ: 山鹿市教育総務課

TEL 0968-43-1396

思春期の心と体

中学生から高校生のころは思春期といわれます。

いわゆる大人でもない子どもでもない時期に当たり、女子では初潮が始まり、男女差が顕著に現れてきます。

自分らしさを探し、親への依存心と干渉を受けるのは嫌という自立心との葛藤が生じます。

子どもとのコミュニケーション

会話はもちろん、子どものしぐさ、表情、雰囲気など声にならない声を傾聴し十分に受け止めることで、思春期には豊かな会話が生まれます。

会話の内容

小学生の頃は、家に帰ると学校であったことを盛んに話した子どもでも、中学生になると無口になってきます。

話すことといたら、「勉強しなさい」「勉強はやってるか?」「学校はどうだ?」なんてことをワンパターンに口にします。子どもにとっては楽しい話題とはいえません。

☆親と話したいことは?

思春期に入ると、子どもは親なんかと話をしたくなくなるものだという人もいますが、そうではありません。問題は、会話の内容なのです。子どもが考える「親と話したい話題」は、さまざまなアンケートによると、「学校のこと」、「友だちのこと」、「ファッションや音楽、映画、スポーツなど趣味の話題」、「テレビの番組」などです。子どもは親との会話を慎重に選ぶようになります。子どもに話をさせようと思うなら、子どもが話しているときに「先回りしない」、「批判しない」、「口を挟まない」こと。そして、子どもの友達の悪口を言わないということも重要なポイントになります。

会話とは、子どもから親への報告ではなく、一方通行では成り立たないものです。

その基盤は『共感』です



☆親に話して欲しいことは？

「冗談や実際にあったおもしろおかしい話」や「親が自分の年ごろだったときのこと」、「ファッションや音楽、スポーツなど趣味の話題」。そこには、同じ思いを親子で共有したいという願いが感じられます。

親がユーモアのセンスを発揮して、子ども時代のことや実際にあった愉快な話などを楽しく話してくれることを子どもは望んでいます。まずは、お子さんと一緒に話して笑いましょう。笑いは『共感』を誘います。伝染します。子どもの一言に親が大笑いすれば、子どもの心も徐々になごんできます。笑いに包まれた家庭は温かく、心からのやすらぎをもたらし、たとえ外でいやなことがあっても心の傷を癒してくれる場所となります。笑いは、子どもの心に温かさをもたらし、緊張感を緩めます。また同時に自分自身が他人を楽しくさせることができたという幸福感や充実感をもたらします。これは存在の肯定感につながり、対人関係にも自信を与えます。自分に自信があれば、他人に対していやなことはいやとはつきり自己主張ができ、自分の考えを伝えることができるようになるのです。

思春期のコンプレックスとストレス

思春期はホルモンが活発に分泌され、心身ともにアンバランスで不安定な時期で劣等感を感じやすい年頃でもあります。思春期は「自我」が目覚め、自分と他人との差異を感じ取るようになります。自分は他人と違う、他人より劣っているなどと考え始めると、ありとあらゆることがコンプレックスの材料になってしまいます。なかでも「容姿」と「成績」、これは劣等感を感じやすい要素です。

「容姿」のコンプレックス

中学生は身体も急速に成長します。男の子は声変わりし、柔らかな幼児体型を抜け出して筋肉質になり、ヒゲやスネ毛などが濃くなってきます。女の子は体の線がふくよかになり、大人の女性の体型に近づきます。中学生の頃は変化に個人差があり、まだ子どもの体型の子もいれば、体型だけはほとんど大人のような子もいます。子どもは戸惑い、時に自分に起きる成長の変化を受け入れたくないと感じてしまいます。脇毛やすね毛が気になり、ピチピチのスイミングパンツを穿くのはものすごく嫌、という声も耳にします。女の子も胸の膨らみが目につくピッタリした体操着を嫌うことがあります。

「成績」のコンプレックス

子どものコンプレックスは親や周囲の価値観の反映でもあります。学校の成績で子どもの人格のすべてを評価することはできません。普段はそんなことはわかっている、つい言葉の端々に言ってしまうがちです。成績がすべてではないということを親も改めて理解しましょう。思春期は「自分はみんなと違ってダメだ」と思いこみやすい年頃です。まだ世界が狭く常識も不足しているので、友だちと比較して少しでも違ったことがあると、「自分だけ」と考えやすいのです。

では親はどうしたらよいでしょうか。さりげなく、体験談を子どもに話してあげましょう。「おかあさんの若いころ、こんなことで悩んでしまったことがあるの」「今から思えば笑っちゃうけど、おとうさんはこんなことで深刻に考え込んだぞ」などと実例を話してください。聞いた話でも読んだ話でも何でも結構です。要は「誰でもつまらないことにコンプレックスを感じたり悩んだりするものであり、そうして大人になっていくものだ」ということを子どもに伝えるのです。コンプレックスを抱えている子もそうでない子も、おもしろそうに話を聞き、安心して一つ大人への階段を昇ります。

子どものストレス

子どももストレスを感じながら生活しています。家庭でのストレスの最大要因は「親の不和」。夫婦喧嘩が絶えない家庭は子どもにとって居心地最低の場所となります。親の不仲は、想像以上に子どもの心を傷つけます。夫婦が冷戦状態であっても、子どもは無言のメッセージを感じ取ります。そんなとき子どもは自分の存在が諸悪の根源のように思え、罪悪感すら感じます。親の関係だけでなく、親と祖父母との関係、兄弟の問題なども、やはり自分にその原因があると子どもが苦しんでいる場合もあります。お子さんの心をいろいろな方角から優しく思いやってください。「受験」や「将来」についての漠然とした不安感やプレッシャーもストレスとなって現れます。イライラの捌け口に暴力をふるったり陰湿ないじめをしたりします。人間関係に疲れ、イライラし、学校に行くことに嫌気がさしたり、ヤケになったりしますが、家でもやはり学校と同じ「勉強しろ」、「友だちと仲良く」と言われ続け、溜まったガスを発散させる場がありません。

子どもと向き合って

わが子のことは何でも知っている、というのは親の思いこみかもしれません。わが子といえども理解していないことはたくさんあります。親が手助けできることは、子どもの苦悩に心を開いて耳を傾けてあげることです。言葉にして表現することができにくい状態なのですから、まずは話しかけられる環境や雰囲気を作ることが大切です。つまり親は、子どものいかなる態度にも引きずられずに落ち着いているということです。できれば、にこやかでありたいものです。そして子どもが感情をぶつけてきたら、あくまでも冷静に受け止めます。溜まったものを吐き出しさえすれば、子どもは親の真意を改めて悟ります。今だって半ばわかっているのです。

